

本学関係者による展覧会情報	
■宇野和幸／油画	■河本万里子／日本画
『個展』 日時：3月30日(火)～4月10日(土) 会場：セーラムギャラリー(アメリカ・ニューヨーク)	『新春チャリティ展』 日時：1月19日(火)～30日(土) 会場：アートスペース東山(京都)
■入佐美南子／油画	■fujii+fushikino(藤井良子)／染織
『京滋二科会員会友展』 日時：1月19日(火)～20日(水) 会場：京都府立文化芸術会館(京都)	『モスリンとモス絨―変貌する渡来布の物語― 関連企画「モスリンを着てみよう」』 日時：3月18日(木)～22日(月・祝) 会場：神戸ファッション美術館1階(兵庫)
■中野庸二／油画	■藤井良子／染織
『Ge 新春小品展』 日時：1月17日(日)まで開催中 会場：画廊ぶらんしゅ(大阪)	『京芸transmit+program #1「きょう・せい」(仮称)』 日時：5月1日(土)～30日(日) 会場：京都市立芸術大学施設内(予定)(京都)
■堀井聡／油画	■吉水絹代 兼先恵子 大住由季／染織
『白日会展』 日時：3月22日(月・祝)～26日(金) 会場：国立新美術館(東京)	『日展』 日時：1月15日(金)まで開催中 会場：京都市美術館(京都)
■内海福博／日本画	■吉水絹代／染織
『春季創画展』 日時：4月13日(火)～25日(日)※19日(月)は休館 会場：京都市美術館(京都)	『京都美術工芸作家協会』 日時：2月16日(火)～21日(日) 会場：京都府立文化芸術会館(京都)
■島田理恵 河本万里子 前田恭子／日本画	■安藤隆一郎／染織
『京都日本画新展』 日時：1月27日(水)～31日(日) 会場：美術館「えき」KYOTO(京都)	『京都オープンスタジオ2010』 日時：2月10日(水)～21日(日) 会場：凸倉庫(京都)

附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール	
附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」	■『2009年度生涯学習講座受講生作品展』 日時：3月9日(火)～14日(日) 10時～18時 ※最終日は16時まで 無休 主催：京都嵯峨芸術大学 文化事業部 ※予定は変更になる場合があります。 ※「北欧のグラフィックデザイン／フィンランドポスター展」は 主催者の都合により中止となりました。
■『京都嵯峨芸術大学 大学院芸術研究科 学位審査 作品展示』 日時：1月15日(金)まで開催中 10時～18時※最終日は16時まで 主催：京都嵯峨芸術大学 大学院	連続公開講座「京の美意識」
■『研究生展』 日時：2月16日(火)～23日(火) 10時～18時※最終日は17時まで 休館日：月曜日 主催：京都嵯峨芸術大学	■第49回 2月20日(土) 「神主残酷物語」佐々木俊輔＜平岡八幡宮宮司＞
■『めくるめくるファンタジー 絵本とその原画展』 日時：2月28日(日)～3月7日(日) 10時～18時※最終日は17時まで 無休 主催：京都嵯峨芸術大学 生涯学習絵本講座	■第50回 3月13日(土) 「嵯峨鳥居本と平野屋の歩み」井上典子＜平野屋女将＞ ※いずれの回も14:20～有響館G401教室にて(参加無料)。 お申込み・お問合せは文化事業部まで。TEL.075-864-7898

「編集後記」
リニューアル第2弾目の今号、いかがでしたか？学内外のタイムリーな情報をできる限り分かりやすく紹介することを心がけています。皆さんのご感想をぜひともお聞かせ下さい。さて、あっという間に2010年を迎えました。2011年の学園創立40周年が目の前に迫っていますが、現在広報室では「卒業・修了制作展」の目録や作品集などの関連印刷物、また2011年度入学募集用の大学案内も鋭意制作中！多忙を極めるシーズン真っ只中ですが前進あるのみデス(涙)。(広報室)



学校法人 大覚寺学園
京都嵯峨芸術大学
大学院・芸術学部・短期大学部



京都嵯峨芸術大学広報 第31号 2010年1月7日発行 編集：京都嵯峨芸術大学 総務部 広報室
発行：学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学 〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859 FAX.075-881-7133 info@kyoto-saga.ac.jp www.kyoto-saga.ac.jp

京都嵯峨芸術大学 広報

CONTRIBUTION	特別寄稿 本学園の歩み～学園創立40周年を控えて～
NEWS	理事会報告：学園創立40周年記念事業 ログマーク紹介 大学報告：京都嵯峨野文化サロン開催報告／2010年度入試報告／東儀秀樹客員教授 特別授業報告／嵐芸祭開催報告 ハロウィンイベント報告／平成21年 観月の夕べ・野外彫刻展開催報告 告知：第38回卒業・修了制作展告知 各委員会報告：博物館アートスペース嵯峨運営委員会／図書館委員会／紀要委員会／FD委員会
TOPICS	教員・在学生の活躍：「太秦戦国祭り2009力～The Force～」参加／「ART UNIV.2009“アートの時代、デザインの時代”」参加／福崎町キャラクター・関西国際PR事業ポスター／FAN活動報告 駅中スイーツパッケージデザインコンペ 地域連携：「京都・嵐山花灯路2009」開催報告 附属機関：博物館・ギャラリー企画報告 卒業生の活躍：西村智明さん・美智子さん 大学行事予定：Jan.2010 ― Apr.2010
INFORMATION	本学関係者による展覧会情報 附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール 編集後記

31

本学園の歩み

～学園創立40周年を控えて～

特別寄稿 平松 國和／加藤 明子／柴田 潤

2011年、本学は学園創立40周年を迎えます。記念ロゴマークも完成し、来年度からはキャンパス整備や記念イベントなど、様々な事業が予定され目下計画進行中です。そこで今回は、学園創立当初から現在まで本学の教育活動にご尽力いただいている平松國和先生をはじめ、加藤明子先生、さらに昨年度ご退職された柴田潤先生に本学での思い出を振り返っていただき、お話をうかがいました。

平松 國和

ひらまつ くにかず

京都市立美術大学彫刻科卒業、1971年着任。現在は、京都嵯峨芸術大学芸術学部 造形学科 彫刻分野、および大学院教授。本学での担当科目は「作品研究」「造形基礎実習(彫刻)」「造形専門実習(彫刻)」「卒業制作(彫刻)」「現代作家論(立体)」。



現京都嵯峨芸術大学の前身、嵯峨美術短期大学が設立されることになり、そのスタッフの一員として準備委員に携わったのは1970(昭和45)年の夏頃だった。

大覚寺(旧嵯峨御所 大覚寺門跡)の華道芸術学院事務所を急遽、図書館に模様替えし、畳敷の各部屋を、日本画、洋画、工芸、生活デザイン科の各実習室に設え、彫刻は地下室に設けられた。陶芸窯は華道芸術学院の寮の前庭に、また多宝塔前の空き地、竹林の前の芝生の広場、更にはバスの駐車場をロープ張りで区切ってそれらをグランドに見立て、文部省(当時)の視察に対応されたこと等々、記憶の断片ではあるが、面白く思い起こされる。そして愈々1971(昭和46)年4月、嵯峨美術短期大学が大覚寺内に開校し、助手として赴任した。同寺の宸殿において執り行われた入学式は、御法楽に始まり、教職員や新入生も初めて聞く般若心経の読経に新しいスタートの緊張が漲っていた。

さて授業はカリキュラムを定かに覚えていないが、1年次、前期後期共に美術科は、日本画、洋画、彫刻、工芸の4コースの各専攻を履修するシステムが採られていた。従って1期生は全員顔なじみとなり、私と学生との年齢も近く皆友人のように接していた。今も多くの1期生と交流が続いている。

設立当時の記憶として印象深いのは、よくお酒を飲んだこと。もう時効につき日本画の故・奥村厚一先生とのエピソードをひとつ。先生はお酒が大好きで、私も飲めるくちだったのでよく誘って戴いた。お昼時には大覚寺近辺の湯豆腐屋や蕎麦屋で御馳走になった。昼食にも拘らず先生はいつも日本酒を所望され私にも奨められるのである。「授業前ですから」と断ると『風邪引いたとか云うてこのまま帰ったらよろしいがな』と言われる有様。夕方までお酒の相手をし、タクシーで街まで飲み直しに連れて行ってもらふこともしばしばであった。また私個人だけでなく、授業が終了するとよく彫刻の教室にも来られ『わたしはブランドーは飲みませんので』と学生に奨め、冬場などストーブで目刺しやスルメ、殻付きの牡蠣などを焼きながら、絵画や美術について熱く語っておられたことが昨日のここのように思い出される。また先生の発案で教員の懇親会がたびたび催され、泊まりがけであちこちにも出掛け、酒を酌み交わしながら夜更けまで大学の将来について語り合ったものであった。

やはり設立1年目は新鮮であり、活気に溢れ皆元気だった。

今も39年前と同じく少人数なこじんまりした学園は変わらないが、教職員と学生が30年40年先の夢を語れるようなコミュニケーションの場は必要だと感じている。

加藤 明子

かとう あきこ

京都教育大学特修美術科西洋画卒業、1972年着任。現在は、京都嵯峨芸術大学 芸術学部 造形学科 造形基礎、および大学院教授、本学附属博物館館長。本学での担当科目は「作品研究」「造形基礎実習」「現代作家論(平面)」。



大学を卒業すると同時に作家活動を始めましたが、当時嵯峨美術短期大学はまだ影も形もありませんでした。某大学で5年間勤め、その後上野照夫教授に嵯峨美に来ないかとお誘いを受け、開校1年後の嵯峨美術短期大学とのお付き合いが始まりました。はやいもので38年にもなりますか。まだ大学が立ち上がったばかりで、大変なことが多かったのは確かです。最初は大覚寺(旧嵯峨御所 大覚寺門跡)の敷地内に各学科の実習室があつて、1972(昭和47)年5月に有栖川のプレハブの仮校舎に移りました。現在の本学が建っている場所は、当時はまだ貯木場でしたよ。“へえ、こんな所にキャンパスが出来るのか”と驚いた覚えがあります。

ただ当時学科を教えておられた諸先生方は、まさしく知識の宝庫ともいうべき方々ばかりで、本当に勉強させていただきました。授業用の資料の作成、授業の方法、学生への対応等々、当時の経験は今の私にとって何ものにも変えがたい貴重な財産です。人にもものを教えるということの難しさは常に痛感しています。本当に自分にものを教えることが出来るのかというジレンマに毎日襲われ、教員としての資質を問い直す日々を過ごしてきました。色々な出会いがあり、様々な葛藤もありましたが、やっとこの学校で「生かせていただいた」という実感を持つことが出来るようになり、有難いことだと思っています。

本学は設立当初から「作家を育てる」という大きなスローガンを掲げていましたが、最終目標をそれだけにシフトしてしまうのには、疑問があります。「作家になる」ということは、人生の生き様の選択肢のひとつにしかすぎず、大学は“色・かたちで自己表現をすることの意味を考え、それを通して自身の生き様について考える時間・空間であつて欲しい”と思います。各自が充実した社会生活を営み、自分自身の内面を豊かにしていくこそが大切なのではないでしょうか。人生の“達人”を目指して欲しいですね。

ここ10年ほど、学生の気質の変化を感じます。もっと自分に素直になって、自分の疑問に積極的に向き合つて欲しい。誰でもない自分の人生です。自身で見つけ、これだという道を進んでいってもらいたいと願つてやみません。

柴田 潤

しばた めぐみ

京都市立美術大学デザインコース修了。専門はベーシックデザイン。1982年に本学に教員として着任し、本学短期大学部美術学科デザイン分野教授を務め、2008年3月に教授職を退いた後は、非常勤講師として竹を使用した灯籠作りの同好会「竹造-TAKEZO-」の顧問を務めるなど本学の教育活動に尽力。



わからない、分からない、解らない、判らない、わからないものだらけの世の中を、判った、解った、分かった、わかったとして生きて来た。でも今もわからないものだらけであるし、悪い過去は忘れてしまった事も多い、それを良い過去として転換して保存もしている。一瞬先は未来、一瞬後は過去である。過去は良い事で一杯貯まっているのに、未来の蓄えは何もありません。でも生きてる限り未来は無限にある訳です。貯まった良い過去を活かし未来に挑戦しないと駄目です。だから私だけでなくすべてにとって今が大事なのです。私は今を生きています。

面白い、こんな教師生活をやつて来た人はそういないだろう。今、私は現在65歳になり3度目の青春だと感じている。入学式、研修旅行、学園祭、卒展、卒業式を30回経験して本当に楽しかった。富田喜一郎先生(建築デザイン)に助けられミケーレデルッキ、デパス、クランブルックの講演会、河原でのインсталレーション課題、京都祭のパレード8回、「愛宕古道街道灯し」13回、コンペティション「京を造る」4回、インテリア、環境デザインと本当に学生と一体になり大変面白かった。同時にレストランの設計、住宅の設計など色々やつてすべてが面白かった。最初の3年間は京都精華大学の非常勤もしながら、教える先生としてやっていた当たり前の先生だった。4年目から教えるというより学生と社会と一緒に遊び、そして学ぶ先生になっていった。作品展の為に学生と徹夜をしながら実習をして本当に楽しかった。「実習」という単語は古臭い単語かもしれないが、私にはすべてが実習と言える。「実」を「習う」。ある意味教えると言うより学ぶ事から、生きて行く大事さに気が付いたような気がする。

学園祭で「餅屋」を20回もやっている、今や老舗である。学園祭では餅屋の前はカレー屋、そば屋、クレープ屋と中村和夫先生(建築デザイン)と二人でやっていた。佐和隆研 学長も「佐和隆軒」と言うそば屋を事務局の職員の方と出店していた。学園祭で30回以上模擬店を出しているのは本学の先生では私しか居ません。餅屋1回目は何もわからず始め、今から思うと変な餅屋で、餅つき機で突いて丸めて、横でクレープを焼いてと、それが最初だった。2回目から本格的に臼杵、蒸し器、餅箱、と店作りも工夫し、学園祭が3日間ある時代だったので、めちゃめちゃ利益の上がる餅屋だった。ピナツボ火山爆発被害(1991年)、エチオピア独立(1995年)にシルクスクリーンで刷ったトレーナーを寄付したりと大変面白かった。これからも学園祭では餅屋をやつて行きたいと思います。

現在は清滝道でスタジオ「泰片荘」で地域の暮らし方を研究し、毎日昼寝をしています。気軽に立ち寄ってもらえたらうれしいです。

NEWS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

理事会報告

学園創立40周年記念事業 ロゴマーク紹介

学園創立40周年に先立ち、記念事業に使用するロゴマークがデザイン分野の先生方のご協力により作成され、40周年記念イベント委員会にて決定いたしました。ロゴマークの使用期間は、2009年11月20日～2012年3月末日とし、大学関連の各種イベント等の印刷物に積極的に活用していき全学的周年告知キャンペーンとします。(総務課)

使用管理：総務部広報室

デザイン制作協力：観光デザイン学科教務助手 宗井 優(2008年度 本学大学院修了)



大学報告

京都嵯峨野文化サロン開催報告

「京都嵯峨野文化サロン」は、平成14年に旧嵯峨御所大覚寺門跡と本学が連携して、嵯峨野の伝統と魅力を探り、現代人の意識に合った新しい文化や芸術を嵯峨野から発信していくことを目指して開設したものです。第8回目となる今年は、第1回目に企画した『平家物語』を再度取り上げ、「嵯峨野にめぐる『平家物語』の世界」をテーマに、10月10日(土)、大覚寺にて開催しました。開場前に小雨がちらつき天気か心配されましたが、285名の参加者を迎えて無事開会出来ました。第1部は同志社女子大学名誉教授の龍谷壽氏による講演、第2部は横笛の藤倉名生氏と等の石垣清美氏に演奏をご披露いただきました。龍谷氏の講演は「小督(『平家物語』巻第6)』についてユーモアを交えて分かりやすく語っていただきました。また、藤倉氏と石垣氏による演奏はそれぞれソロで演奏していただいた後、最後に今回のテーマに沿ってお二人の即興演奏をご披露いただき、その光景はまるで『平家物語』の一部を再現しているかのようでした。今後も地域にちなんだ企画を提案し、地域の文化や伝統を大切に継承していきたいと考えています。(文化事業課)



2010年度入試報告

2010年度の入学試験は、8月のAO入試から始まり、推薦入試まで終了(2009年11月現在)しました。AO入試のエントリー数は、芸術学部が59名(前年比23%減)、短期大学部が77名(前年比28%増)となりました。推薦入試の志願者数は、芸術学部が162名(前年比20%減)、短期大学部が44名(前年比21%減)と減少しました。現時点での学園全体の入学手続者数は、昨年を若干上回っています。入試後半にかけて、併願者層の取り込みを図っていくよう、募集広報に注力していきたいと考えています。(入試課)

東儀秀樹客員教授 特別授業報告

6月2日(火)、本学AVホールにて東儀秀樹客員教授による特別授業が行われました。「日本文化の価値と雅楽の可能性」と題して行われた講義には、40名近くの学生が集まり、3時間にも及ぶ授業を熱心に受講しました。途中には東儀先生の生演奏も入るバラエティに富んだプログラムで、授業終了後には華楽(ひちりき)・笙(しょう)など貴重な文化財でもある楽器を学生が手ほどきを受けながら自由に演奏したりと、充実した講義内容となりました。また、10月6日(火)にも東儀先生の特別授業が開催されました。こちらは、新たな試みとして講義前に学内で事前アンケートを実施するなど、学生のニーズを踏まえた授業が展開され、前回と同様、盛り沢山の授業内容となりました。(教務課)



嵐芸祭開催報告

嵐芸祭は変わろうとしています。それは実行委員の新たな挑戦と嵯峨芸の学生の心から溢れ出しました。あなたにとって、嵐芸祭は少しの時間を過ごす場所かもしれません。でも、きっといつもとは違うなにかが訪れます。嵐芸祭2009テーマ「カイジウ」の企画数は前年度と比較して2倍以上の60企画です。おもな企画は「ふゆのひかり」、「京都嵐山ファンタスティック映画祭」、「P-1グランプリin 嵯峨」、中庭ラジオステージで次から次へと行なわれるイベントの数々です。中でも、「ふゆのひかり」は嵐芸祭実行委員会装飾部が最も力を注ぎ込んだメインイベントです。正門にある巨大なカイジウの頭、北グラウンドの地面から突き出た大きな尻尾は全長18m高さ5mの嵐芸祭史上最大大きな灯笼として、竹造の提灯とコラボし、夜の学園祭に私たちの灯りを灯しました。今年の特色としてもう一つ、学生からより多くの出物を企画し、学園祭に参加しよう!という試みが一年間通じて目立った動きでは

第38回卒業・修了制作展告知

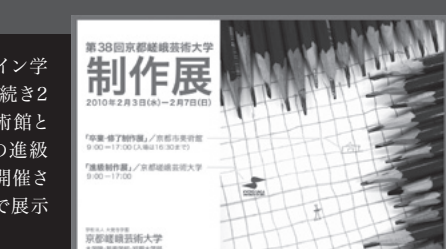
本学で磨いた感性と表現力を発表する、1年に一度の大学を挙げて行う展覧会を今年度も開催します。京都市美術館では「卒業・修了制作展」として、芸術学部4回生、大学院生、短期大学部2回生、専攻科生の作品を発表します。今年度は、従来の展示形式を大きく変更し、表現形態およびスペースを「絵画系」「ビジュアルデザイン系」といった5つのジャンルに大別、それぞれに該当する学科・分野の展示を行います。つねに新しい表現への挑戦を展開している「嵯峨芸」の制作展をぜひご覧ください。また、制作展の広報に使用される告知ポスターとDMのデザインも決定しました。

今年は嵐芸祭実行委員会の呼びかけのもとデザイン公募が行われ、観光デザイン学科4回生の鈴木淑見さんのデザインが採用されました。鈴木さんは昨年引き続き2年連続の採用となります。加えて、大学内では「進級制作展」として、学内を美術館と見立てて、芸術学部2・3回生および短期大学部1回生の作品を展示します。この進級制作展にあわせて、学生たちの自主企画による展覧会「one room」が今年も開催されます。このone roomでは、構内のクラブボックスを使用し、学生が個展形式で展示を行い、またゲスト作家による講演会を行います。(教務課)

『第38回卒業・修了制作展』 会場／「卒業・修了制作展」＝京都市美術館
2010年2月3日(水)～2月7日(日)
9:00～17:00 ※京都市美術館の入場は～16:30

※詳細は事務局・教務課までお問い合わせください。TEL:075-864-7867 kyomu@kyoto-saga.ac.jp

『one room5』2010年2月3日(水)～2月11日(木) 9:00～17:00 会場／京都嵯峨芸術大学構内 クラブボックス
企画・主催／one room実行委員会 後援／京都嵯峨芸術大学、学友会 お問い合わせ:one_room10@yahoo.co.jp



「第38回卒業・修了制作展」のDMデザイン



昨年の「第37回卒業・修了制作展」会場風景

TOPICS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

教員・在学生の活躍

「太秦戦国祭り2009 カ〜The Force〜」参加 平成に蘇った戦国の華 クロスメディアカルチャーを記録せよ

10月3日(土)、4日(日)の2日間、東映太秦映画村で開催されたイベント「太秦戦国祭り2009 カ〜The Force〜」に、本学メディアデザイン学科の江村耕市准教授が本学生13名を率いて参加されました。これは、日本映画の制作から始まった映像産業の聖地・京都太秦において、戦国時代を中心としたクロスメディア表現を鑑賞・体験しようという産学協同の取り組みで、当日はコスプレなどの参加型イベントも行われました。江村先生が本イベントのロゴマークとグラフィックデザインを担当し、本学学生で記録映画制作チームを結成して参加、コスプレイヤーたちが場を彩り、戦国時代の息吹が蘇ったかのような会場で、大きな収穫を持ち帰った様子です。(広報室)

「ART UNIV.2009“アートの時代、デザインの時代”」参加 表現場所は大学だけじゃない 靴を履こう、街へ出よう!!

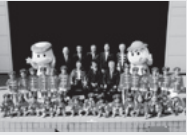
11月10日(火)から22日(日)にかけて開催された芸術系10大学による合同作品展「ART UNIV.2009“アートの時代、デザインの時代”」に本学が参加しました。本展は、大学を飛び出して街中で作品を展示することで学生の作品や創作活動を広く紹介し、学生と地域との交流の場を設けようと2000年より毎年開催されているもので、今年は例年より1会場増えて計3会場になるなど見ごたえも十分。会場条件を活かした様々な展示方法で、さん然と佇む作品の表情には、作り手の静かな情熱がキラリと光っていました。また、今年のチラシには本学観光デザイン学科の鈴木淑見さんのデザインが採用されたこともあり、例年よりさらに注目度の高い作品展となりました。(広報室)

福岡町キャラクター・関西国際PR事業ポスター まちづくりキャラに国際PRポスター・・・ 観光デザイン学科の学生が活躍中!

本学観光デザイン学科3回生の井上早智さんと同学科3回生の寺岡大祐さんが、兵庫県福岡町のまちづくりキャラクターとロゴマークをデザインしました。これは、本学観光デザイン学科の坂上英彦教授が福岡町のまちづくりアドバイザーをされていたことに端を発し、デザイン・表現へと至ったもの。キャラクターは、福岡町が民俗学者・柳田國男先生誕の地であることから、民俗学に登場するカッパをベースに、特産品の「もちむぎ」を使った「もちむぎバスタ」を融合してデザインされました。これらのビジュアルデザインは地域のイベントやマップ、店舗看板などに採用され、ついにキャラクターの着ぐるみも完成。10月30日(金)には、福岡町にて福岡町長より本学学生2名と本学に対して感謝状が贈呈されました。

また、本学観光デザイン学科3回生の中川美穂さんと同学科3回生の甲佐緑さんが、2008年より関西広域機構が主体となって行っている関西国際PR事業のポスターをデザインしました。関西広域機構とは、観光PRなどの事業を通じて関西を発展させることを目的に関西の政令都市などで構成された組織で、坂上教授と同学科の辻勇准教授が本学を共同

指導し、採用デザインを正式決定しました。このポスターは、韓国ソウルの地下鉄広告として掲されたほか、台湾の台北、中国の上海、香港でも広告展開され、さらに現地の女性向け雑誌にも掲載されました。(広報室)



FAN活動報告

きみは彼／彼女らを知っているか 学生発信の広報局、その名は…FAN!

本学生の有志が集まって結成された団体、FANが活動の幅を広げています。FANとは、Friendly(人とのつながり)、Arts(作品)、Network(共有)の略で、学生目線で本学の姿や学生の活動を広報し、本学のイベントを盛り上げていくことを目的として2009年5月に結成された団体です。現在メンバーは10名、活動期間はまだ短いながらも、これまでフリーペーパーを4号発行したほか11月に行われた嵐芸祭に企画を持ち込み実現させたりと、様々な活動を行ってきました。中でも彼らが制作するフリーペーパーは、本学の魅力を学外の人々に広報し、学内に対してはFAN活動を広めるため、企画・制作から発行に至るまですべての工程をメンバーが役割分担し、嵐芸祭では「FAN BOX」というイベントを企画し、作品展示や雑貨販売、本学教員によるトークライブなどを行いました。今後も学生発信の広報局、FANに要注目です! (広報室)

駅中スイーツ パッケージデザインコンペ

地下鉄事業・地場産業の救世主 売り切れ御免の『駅ナカ』スイーツ現る

京都市営地下鉄烏丸線の都駅駅と四条駅の構内に発売されている「駅ナカ」オリジナルスイーツのパッケージデザインコンペにて、本学観光デザイン学科の角映理子さんが「最優秀賞 京都市長賞」を、同じく本学の藤井紫織さんが「優秀賞 交通局長賞」を受賞しました。最優秀賞を受賞した角さんは、京絵巻総本舗のオリジナル和菓子「水尾の柚子ちーず」 鷹のお気にいりのパッケージデザインを手掛け、京都の名産である水尾の柚子の色を基調色に公家をイメージしたキャラクターをデザインして京都らしさを表現しており、商品との相乗効果をもたらしています。この京絵巻総本舗のオリジナル和菓子「水尾の柚子ちーず」 鷹のお気にいり、は、右京区水

大学行事予定 Jan.2010 ― Apr.2010

■1月8日(金)
■1月18日(金)
■1月22日(金)

■1月23日(土)

■1月23日(土)～24日(日) 芸術学部一般入試(前期)
■1月25日(月)～30日(土) 後期定期試験
■2月3日(火)～7日(土) 卒業・進級制作展(於:京都市美術館・大学キャンパス)
■2月16日(火)～23日(火) 後期集中講義期間
■2月23日(火) 短期大学部一般入試(後期) 専攻科入試(後期)

■2月24日(木)

■3月19日(金)

■3月20日(土)

■3月25日(火)～30日(火) 大学院入試(後期) 芸術学部一般入試(後期) 3年次編入学入試(後期) 芸術学部プレゼンテーション入試 短期大学部自己推薦入試(後期) 芸術学部・短期大学部特別入試(帰国生・社会人) 卒業・修了式(於:大学講堂) 教育後援会主催祝賀パーティ(於:京都都全空ホテル(堀川御池)) 在学生オリエンテーション 履修登録 入学式 新入生オリエンテーション、履修登録 授業開始

■4月2日(金)

■4月2日(金)～6日(火)

■4月7日(水)

なかったでしょうか?学生の参加が減少しているということは今に始まったことではありません。この問題に対し、新たに部署を設立し、コソコソと段取りを踏んで行くことで前年比2倍のイベント数となりました。

思い起こせば今年の嵐芸祭がスタートしたのは去年の嵐芸祭の打ち上げをした次の週、12月7日だった気がします。そして、今年のテーマを決めたのが3月。4月、新入生へ向けて猛烈アピールを行ない、多くの新スタッフが入ってきました。そこで今年の実行委員長が言ったことは、「学校を迷路みたい日に一日中楽しみたい」ということ。「たくさんの学祭企画、楽しめたよ」という言葉が聞けて良かったです。(嵐芸祭実行委員会)



ハロウィンイベント報告

今年度のハロウィンパーティーは10月30日(金)の放課後に実施しました。ハロウィンパーティーとは、毎年様々なキャラクターに仮装した学生が学生ホールなどに集まり、ビンゴ大会などをして楽しむという学内行事の事です。例年は学友会執行部が主催をしているハロウィンパーティーですが、今年は一般学生から企画を募集するという事で軽音楽部主催によるハロウィンパーティーが行われ、学生ホールに設置した舞台の上でライブやハロウィン仮装コンテストなどが行われました。その他の企画では、HIP-HOP部によるダンスやお菓子配り、フリーマーケットや玄関・学生ホールなどを中心とした学内装飾なども行われ、たくさんの学生が参加して盛り上がったハロウィンパーティーになりました。(学友会)

平成21年 観月の夕べ・野外彫刻展 開催報告

本学の設置母体である旧嵯峨御所 大覚寺門跡にて毎年行われているお月見行事「観月の夕べ」が、10月2日(金)から4日(日)にかけて開催されました。当日は大覚寺・大沢池に龍頭舟を浮かべ、池を一周しながらお茶を喫して水面に浮かぶ月を鑑賞するという古式豊かな鑑賞方法あり、本学のクラブ「箏曲会」による琴の演奏もあり、各所にお茶席も設けられるなど、平安王朝の風が吹く優雅なひとときが繰り広げられました。さらに今年は本行事の一環として、10月1日(木)～5日(月)の期間、本学芸術学部彫刻分野の学生10名による「野外彫刻展」を開催。大沢池周辺を舞台に学生自身が展示場所を選択し、その場所に合うよう制作した様々な作品が中秋の名月の光を浴びて鑑賞者を幻想の異世界へと誘い、訪れた人たちは日常を離れた空間を満喫していました。(広報室)

卒業生の活躍

西村智明 にしむら ともあき

青森県 八戸工業大学第二高等学校 美術コース出身
1998年 嵯峨美術短期大学 美術学科 美術専攻 絵画IIコース 卒業

西村美智子 (旧姓:森光) にしむら みちこ

大阪府 大阪府立港南高等学校(現:大阪府立港南造形高等学校) モダンクラフト科 出身
1998年 嵯峨美術短期大学 美術学科 デザイン専攻 生活デザインコース 卒業

嵯峨美術短期大学(現:京都嵯峨芸術大学短期大学部)で出会った お二人に本学での思い出話を伺いました

—現在のお仕事を教えてください。

智明さん:金閣寺に程近い版画工房で伝統木版画の彫師(ほりし)をしています。絵を色分解し、版木に彫刻刀で彫る仕事です。今年で14年目です。

美智子さん:同じ工房で伝統木版画の摺師(すりし)をしています。版木に絵の具を伸ばし、バレンで摺って、木版画を仕上げる仕事です。今年で9年目です。

—現在のお仕事の苦労話や喜びなどを教えてください。

智明さん:手に職をと思ってこの仕事に就き、親方の仕事のスピードについていこうと必死で彫っていました。彫師の腕次第でスピードも仕上がりが(摺りやすい版)も違ってくる。難しい仕事が多々ありますが、自分の技術が向上して仕事の幅が広がっていく事に喜びを感じていますね。

美智子さん:この仕事に就くまで、ほとんど木版画をしたことがなかったのですが、はじめはツインカンペンでした。入って1年は失敗の繰り返しで、みんなが帰ってから親方の指図途中の物を見たり、絵具や道具を触らせてもらっていたりしていましたね。仕事は、版木・紙・絵具・道具、全てが難しいです。彫師さんが彫った版木を自分が摺って絵に仕上げるので、作品の善し悪しは自分で決まります。責任の重さを感じています。

—学生時代のお話や後輩へのメッセージなどを教えてください。

智明さん:学生時代は、下宿仲間とくだらない話を有り余る時間を費沢に使って流浪に生活してましたね。大学での全ての経験が貴重で長い難いものなので、是非とも大切に生きていきたいです。自分の思うがままに制作、生活してください。

美智子さん:桂川の渡月橋の上の方に、てっかい“おたまじゃくし”がいると聞き、友人達と「唐揚げにして食べよう!」と自作の網を作り(私は当時、生活デザインコースだったので、棒やネット、針金で作りました)、おたまじゃくしを取りに行きました。ソフトボール大の頭のおたまじゃくしを捕まえたのですが、ほんまに大きいき気持ち悪いので食べるのをやめましたね。そんな事ばかりしていました。楽しい学生生活でした。今振り返ると、授業や課題のことはあまり覚えていないのですが、受験の時の緊張感や、入学して友達が増えワクワクした事、制作に没頭して時間を忘れたり、10人くらいでバンドを組んで学園祭に出たり、その時にしか出来ない事をいろいろ出来て楽しかったです。今でも大学時代の友達とご飯を食べたり、家族ぐるみで旅行に行ったり、気さくに付き合っているんです。自分なりの嵯峨芸生活を楽しんでください。



※作業中の西村智明さん(左)と西村美智子さん(右)